

ホワイトバス(*Morone chrysops*)とストライプトバス(*M. saxatilis*)

との交雑個体に関する情報(案)

呼称(品種名等): サンシャインバス、パルメットバス、ホワイトロックバス、ストライパー

原産地(ストライプトバス、ホワイトバス): 北アメリカ

定着実績: 無し

評価の理由

- ・ 生態系に被害を及ぼす可能性があるとして共に特定外来生物に指定されているストライプトバス(*Morone saxatilis*)とホワイトバス(*M. chrysops*)の雑種である。
- ・ ストライプトバス、ホワイトバスと同様の生態で肉食性が強く、両種よりも成長が速い。また、両種よりも高水温や低酸素などの水質悪化に耐性がある。
- ・ 交雑個体同士での繁殖は不可能だが、交雑個体とストライプトバスあるいはホワイトバスとの戻し交配により繁殖が可能。
- ・ 湖沼や河川に導入されれば、捕食や競合により在来種を駆逐するなどして在来生物相に大きな影響を及ぼすおそれがある。

被害の実態・被害のおそれ

(1) 生態系に係る被害

- 親種となるストライプトバス(*Morone saxatilis*)とホワイトバス(*M. chrysops*)は、両種共に冬の低水温に耐えることが可能で、かつ繁殖力が比較的強く、全国各地の湖沼や河川に侵入すれば定着して在来生物相に大きな影響を及ぼす恐れがあるため、特定外来生物に指定されている(文献)。
- 大型になるスズキ亜目の魚食性淡水魚であり、導入されれば捕食や競合により在来種の減少を引き起こすなどして在来生物相に影響を及ぼす恐れがある(文献)。
- 北アメリカ原産であるため冬の低水温にも耐えることが可能で、日本全国で生息できる可能性がある(文献)。

被害をもたらす要因

(1) 生物学的要因

- 全長 80cm、体重 12kg 以上になる大型の上位捕食者であり、全長 12cm を超える個体は主に魚類を捕食する(文献)。
- 塩分への耐性が広く、淡水域から汽水域、海域まで生息できる。日本でも東京湾湾

奥部の運河で当該交雑個体と思われるものが見つかった(文献)。

- ストライプトバス、ホワイトバスよりも水温や酸素濃度、濁りなどへの耐性が高く、様々な環境に適応できる(文献)。
- ストライプトバス、ホワイトバスよりも成長が速く、より早い段階から多くの生物を捕食する恐れがある(文献)。
- 10年以上生きるため、一度侵入すれば長期間影響を及ぼす恐れがある(文献)。
- 北アメリカでは、野生下での親種の交雑による交雑個体が確認されている。また、人工的に交雑させることも行われている(文献)
- 交雑個体同士では繁殖できないが、親種となるどちらかの種との戻し交配により繁殖ができる。原産地では野生下での戻し交雑による繁殖も確認されている(文献)。
- 外来生物法による規制以前は、1993年と1994年にそれぞれ当該交雑個体とホワイトバスが同じ霞ヶ浦で捕獲された例もある(文献)。

(2) 社会的要因

- 管理釣り場で釣魚として利用されている(文献)。
- 外来生物法による規制以前に観賞魚あるいは釣魚由来と思われる個体が捕獲されたことがある(文献)。

特徴ならびに近縁種、類似種について

- スズキ型の体形をしており、白銀色の魚体で、体側に細い黒縦線が数本入る(文献)。
- 交雑個体と親種のストライプトバス又はホワイトバスとは、体側の黒縦線の列が大きく崩れることで識別できる(文献)。
- 日本に同属の在来種は生息していない。

その他の関連情報

- 原産地では釣魚として人気が高く、日本でも一部の管理釣り場で利用されている(文献)。
- 台湾ではサンシャインバスが食材及びスポーツフィッシングの対象として盛んに養殖されている(文献)。

注意事項

- 親魚の組み合わせによって、サンシャインバス(ストライプトバス(メス)×ホワイトバス(オス))の他、パルメット又はホワイトロックバス(ホワイトバス(メス)×ストライプトバス(オス))等の通称がある(文献)
- その他モロネ科に属する種間の交雑種として、バージニアバス(ストライプトバス(メス)×ホワイトパーチ(*Morone americana*))(オス)、メリーランドバス(ホ

ワイトパーチ(メス)×(ストライプトバス(オス))、パラダイスバス(ストライプトバス(メス)×イエローバス(*Morone mississippiensis*)(オス))等がある(文献)。

主な参考文献

- Boschung, H. T. and R. L. Mayden (2004) Fishes of Alabama. Smithsonian Books. Washington.
- Coutant, C. C. (2013) When is habitat limiting for striped bass? Three decades of testing the temperature-oxygen squeeze hypothesis. Pages 65-91 in Bulak, J. S., C. C. Coutant, and J. A. Rice, ed. Biology and management of inland striped bass and hybrid striped bass. American Fisheries Society Symposium 80
- Etnier, D. A., and W.C. starnes (1993) The fishes of Tennessee. The University of Tennessee Press. Knoxville.
- Harrell, R. M. (2013) Releasing hybrid *Morone* in natural waters with congeneric species: implication and ethics. Pages 531-549 in Bulak, J. S., C. C. Coutant, and J. A. Rice, ed. Biology and management of inland striped bass and hybrid striped bass. American Fisheries Society Symposium 80.
- Kilpatrick, J. M., and J. J. Ney (2013) Temperature and dissolved oxygen habitat use by striped bass in Claytor Lake, Virginia. Pages 147-159 in Bulak, J. S., C. C. Coutant, and J. A. Rice, ed. Biology and management of inland striped bass and hybrid striped bass. American Fisheries Society Symposium 80.
- 野内孝則・荒山和則・富永敦 (2008) 霞ヶ浦北浦で確認された外来魚の導入経緯. 茨城内水試研報 41:47-54.
- プラチャー・ムシカシントン (2002) 東京湾湾奥部で採集されたシマスズキ *Morone saxatilis*. I.O.P. Diving News, 13(3):2-4.
- Rash, J. M., and J. J. Ney (2013) Comparative ecology of juvenile striped bass and juvenile hybrid striped bass in Claytor Lake, Virginia. Pages 229-247 in Bulak, J. S., C. C. Coutant, and J. A. Rice, ed. Biology and management of inland striped bass and hybrid striped bass. American Fisheries Society Symposium 80.
- Schultz, R. D., A. L., A. L. Fowler, J. M. Goeckler and M. C. Quist (2013) Comparisons of growth for hybrid striped bass in North America. Pages 219-227 in Bulak, J. S., C. C. Coutant, and J. A. Rice, ed. Biology and management of inland striped bass and hybrid striped bass. American Fisheries Society Symposium 80.
- 自然環境研究センター (編著) (2008) 決定版 日本の外来生物. 平凡社. 東京.
- Wydoski, R. S. and R. R. Whitney (2003) Inland fishes of Washington. Univ.

Washington Press. Singapore.